

各教科

めあてに向かって動き出す



教科書を読むだけでは終わらない学び。自分でめあてを立て、その達成のために“誰に聞くか”“何を調べるか”を考えて行動する。保護者へのインタビューも、自分の問いを深めるための一歩。こうした選択と行動の積み重ねが、学習の質を高めていきます。

学びをつなぐ学習リーダー



授業の前に教材を読み込み、学びの流れを考える学習リーダー。仲間の学びを支えるために、先を見通して準備する姿は、まさに主体的な学びの象徴です。こうした積み重ねが、教室全体の学びを豊かにしていきます。

学び方を選択する



“誰と、どう学ぶか”を自分で決めることで、学びがもっと自由に、もっと楽しく。一人で集中する姿も、仲間と協力する姿も、それぞれの選択が生きる学びの風景です。

総合的な学習の時間



経験から始まる探究

実際の体験を通して得た感覚や気づきが、学びの出発点となる。自らの経験をもとに問いを生み出し、探究の方向性を見いだすことで、学習はより主体的で深いものへと変化していく。体験は、思考を促し、学びを自分ごとにする力を育てます。



考えを整理し、深める時間

問いに向き合い、自分の考えを整理・分析することで、学びが深まっていく。考えるための技法は、その過程を支える道具。使うことが目的ではなく、考えを広げ、つなげ、深めるための手段として活用されています。自分の思考を可視化することで、次の学びへの一歩が見えてきます。



体験を振り返り次へつなぐ時間

収穫した稲を手に取り、これまでの活動を振り返ることで、自然の恵みや地域の営みに気づきます。体験を通して得た知識や気づきを整理し、生活や社会とのつながりを考えることで、学びをより深め、次の課題や探究へと発展させる力を育みます。

学校の教育目標「自立・共生・健康」